

～目次～

【1】TKK活動

【2】加盟団体の活動

【3】行政、他団体の活動

【4】新コーナー「行ってきました、聞いてきました！」

— 12 医療圏活動紹介シリーズ ⑧ 区西北部医療圏 公益財団法人 東京都保健医療公社 豊島病院

【5】この1年の活動を振り返って TKK 加盟団体 脳卒中・身体障害専門就労支援センター「リハス」大塚

【6】その他 —新型コロナウイルス関連情報

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 表題の< >はシリーズ開催です —

【1】TKK活動

* *

新型コロナウイルスの感染が拡大しております。下記の日程は、今後の状況で中止等、変更する場合がありますので、HPをご確認下さい。TKK HP: <http://www.brain-tkk.com/index/index.php>

<2020年度 高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会 >

6月、9月に開催を予定しておりましたが、現在のところ次の日程で開催予定です。

第1回 9/20(日)、第2回 11/8(日)、会場:共に慈恵医科大学1号館3階講堂

最新予定はHPで、ご確認ください。http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=235

<2020年度 TKK主催:医療及び家族相談会>

4/26(日)、会場:慈恵第三病院と、5/17(日)、会場:都心障センターの開催を中止します。

6月以降、相談会を再開するか否かについては、HPで、ご確認ください。<http://www.brain-tkk.com/index/index.php>

【2】加盟団体等の活動

* *

●社のハーモニー♪

会員の島津渡さんが、「最新医療経営 PHASE3(フェイズ・スリー)」という、全国の病院・クリニックの院長向けの月刊誌に執筆しました(2020年4月号 Vol.428 3/10 発行)。P46-47「患者学」というコラムで、タイトルは「蘇生から共生へ」。少しでも多くの医療者に「高次脳機能障害」という名前を知っていただきたいし、「リハ継続の可能性」や「途切れの無い支援の重要性」も知っていただきたいと願い、筆をとったとのこと。ぜひお読みください。

●サークルエコー「web 集いの会」2020.4.13 開催

==== web 会議システム ZOOM を活用した、サークルエコー「web 集いの会」を開催しましたことをご報告いたします。当事者の方・ご家族、研究者の方など、途中入退出も含め、総勢10名の方にご参加いただきました。

そもそもこの取り組みは、新型コロナウイルス感染が起こる前から、全国展開しているサークルエコーのコミュニケーション円滑化をはかるために企画していたものです。当初は「そんなのできるわけない」と言われましたが、意欲的に取り組まれた結果、ご高齢のコアメンバーのほとんどの方はしっかり操作できるようになりました。「私はネットが苦手だから」ではなく「うまく活用する！」という強い意志が必要だと思います。年齢は関係ありません。

またご存知の方も多いとは思いますが、ネット上ではフェイスブックを中心に若い方々をメインとした高次脳機能障害の団体が多くあります。彼らのコミュニケーションは極めてストレートです。勉強になります。ただ、啓蒙活動となりにくいところが課題かもしれません。

一方で、リアルの現場では高齢化の問題が顕在化しています。今日の「web 集いの場」も家族介護者の高齢化が大きなテーマとなりました。

サークルエコーとしては、この「web 集いの場」をラジオ番組のように、テーマにそったゲストが語り会員との意見交換を行うというような、堅苦しくない、実用的な場・番組づくりを行う予定です。機会がありましたら、皆様方にゲスト出演をお願いするかもしれません。ご協力をよろしくお願いいたします。

==== 脳損傷・高次脳機能障害サークルエコー 代表 玉木 和彦

○みなと高次脳

1)「第1回定例会・通常総会と交流会」5月30日(土) pm1:30~4:30 『白金台いきいきプラザ・集会室 C(2階)』(港区白金台4-8-5)

白金台いきいきプラザホームページ

<http://www.ikiiki-shirokanedai.foryou.or.jp/work.php?wid=w042>

・内容:通常総会と交流会 (状況によっては開催の仕方を変更致します)

2)「第2回定例会・交流 café と囲碁」6月13日(土)時間:pm1:30~4:30 港区立障害保健福祉センター 会議室と集会室 (港区芝1-8-23)

港区立障害保健福祉センターホームページ

<https://www.city.minato.tokyo.jp/kenko/fukushi/shogaisha/madoguchi/hokenfukushi.html>

開催状況と内容はあくまで予定です。

※どちらの定例会もホームページにて開催状況を確認できます。ホームページ:<https://yykoujinou.com>

【3】行政、他団体の活動

* *

毎年2月に開催されている、国立障害者リハビリテーションセンター主催「高次脳機能障害支援普及全国連絡会及び支援コーディネーター全国会議・シンポジウム」をはじめ、行政、他団体の各種イベント、集会はほとんど中止になりました。

【4】行ってきました、聞いてきました！

* *

区西北部医療圏(練馬区、板橋区、豊島区、北区)

拠点病院:公益財団法人 東京都保健医療公社 豊島病院

事業開始:平成 26 年 4 月

〈報告者:太田三枝子、池田敦子〉

地域の特徴／支援施設等

練馬区(約 72 万人)、板橋区(約 55 万人)、北区(約 34 万人)豊島区(約 28 万人)の 4 区の圏域である。拠点病院の豊島病院は板橋区所在だが、他の 3 区の区境が近接する場所に位置している。各区には大きな病院があり、圏域連絡会には各区の病院関係者や医師会メンバーが揃っていることが特徴といえる。

練馬区には東京都高次脳機能障害者支援ホーム(HiBDy,Tokyo)が入所型で自立訓練事業を行っている。また練馬区中途障害者通所事業だんだんが機能訓練、生活訓練、地域活動支援センターを運営している。板橋区には TKK 加盟の NPO 法人みんなのセンターおむすびがデイサービスを提供し、家族会も開催されている。豊島区内には、都立大塚病院や榎本クリニックなどある。豊島区では、障害者福祉センターが高次脳機能障害に関する講演会を開催し、家族会づくりを支援している。

主な活動／業績

- 専門相談(個別支援に関する相談、リハビリ技術等に関する助言・指導)
 - コーディネーターの設置(関係機関との連携強化、理解促進の働きかけ)
 - 症例検討会(スキルの向上のため、ニーズに沿った具体的な支援方法の検討)
 - 専門職への研修(専門的知識・技術の向上)
 - 圏域連絡会(通常年 2 回開催、活動計画の立案、情報交換)
- 圏域全区を 1 枚にまとめた「高次脳機能障害支援マップ」作成
各区共通様式の「恋時膿機能障害のある方の手続きリーフレット」作成

● **事業推進者インタビュー:**東京都保健医療公社豊島病院リハビリテーション科医長 中島英樹先生
作業療法士 中澤史江主任、地域医療連携室 津吹洋輔係長

【2019 年 12 月 4 日 豊島病院にて】

【今までの経緯】

高次脳機能障害支援普及事業の指定を平成 26 年 4 月に受け、5 年が経過した。

もともと区西北部の地域リハビリテーション支援センターとして、4 区の協力施設、地域のリハビリテーションネットワークと連携しながら地域リハビリテーションに従事する方々の支援を行っていた。高次脳機能障害に関しては、特に板橋区では、区の地域自立支援協議会の

中に高次脳機能障害部会があり、身障センター関係者や医療機関、介護・就労支援事業所、家族会、東京都心身障害者福祉センターの高次脳機能障害担当者も入って地域支援に関する協議を積極的に行っていた経緯がある。

区西北部には 4 つの区があり、1 つの拠点病院で全ての事業を実施するには無理があるので、各区の協力をいただき運営



(左から) 津吹係長,中島先生,中澤主任

するという横並びの立場を取っている。圏域内関係医療機関との連携体制強化の働きかけを行うコーディネーターとして、当院の ST、OT、MSW などの専門職を各区の担当者として振り分けている。専任ではなく、通常業務を行いながらの対応となるため、各区との連絡、お知らせの配信、特に研修等の情報発信などが主になっている。各区で開催される連絡会等にはその区の担当者が出席し連携を深めている。

【活動の状況】

●連絡会等：圏域連絡会は年 1 回開催。メンバーは各区の障害者福祉センターの高次脳担当者、東京都心身障害者福祉センターの担当者、および当院の高次脳機能障害支援普及事業担当者。本事業の活動実施状況の報告、各区の状況報告などを行うことで、情報共有を行う場としている。また年度末には地域リハビリテーション支援センター、高次脳機能障害支援普及事業の合同協議会を実施。区西北部の医師会、行政、協力施設、関係団体、障害者福祉センターなどが参加する場で高次脳機能障害に関する活動報告が行えている。

●リーフレットの作成：連絡会で上がった要望をもとに、ニーズのある方をサービスへ繋げるための「高次脳機能障害のある方の手続きリーフレット」を4区共通の様式で作成している。医療費・所得補助・労災・自立支援医療・介護保険・障害者手帳・障害福祉サービス・年金等の支援サービス・社会保障に関する窓口・連絡先を掲載している。

●相談事業：相談内容により当院の医師・MSW・PT・OT・ST が回答をおこなっている。手帳の取得のための診断書作成等、必要に応じて当事者の診察を行う場合もある。相談の受付は支援者からのみで、ホームページの相談フォーム、FAX から受け付けている。

●専門職への研修会：今年度は「高次脳機能障害との上手な付き合い方～子どもから高齢者まで～」と「高次脳機能障害者の自動車運転」について実施した。

【今後の展望】

各区の協力をいただきながらの横並びの運営、医療機関の参加、地域自立支援協議会(板橋区)との連携等々、区西北部医療圏の活動を行い、それぞれのニーズに応じた対応を行ってきた。この事業に対し自治体が興味を示している所もあり、さらに発展しそうな雰囲気もある。今後、専門のコーディネーターを配置することができれば、さらに相談機能や専門的リハビリテーションの充実を図る事業が可能となるであろう。どの圏域でも高次脳機能障害者の自立を促進し暮らしやすい社会となるよう予算措置を期待している。

【5】この 1 年の活動を振り返って

* *

■ 脳卒中・身体障害専門就労支援センター「リハス」大塚(金沢 QOL 支援センター株式会社)

東京都豊島区北大塚 2-8-11 プログレスヒルズ 5F

・事業所が開設された経緯

元々回復期病院に作業療法士として勤めていた社員が、地域で生活をする若年性脳卒中患者との交流を通じ、若年者だからこそ抱える課題があることを知りました。その一つが「働く」ことであり、作業療法士として、彼ら、彼女らの社会参加をカタチにしたい。そんな熱い想いから 2019 年 1 月、当事業所は開設されました。

・どういふことを行っているのか

就職したい、もう一度働きたいという想いを持つご利用者様に対し、働くために必要な知識・能力を高める支援、ご本人にマ

